

関与するとされる遺伝子が2つマップされているが、両者とも複数コピー存在することが知られている。それぞれのコピーが、異なった程度に働いていることが、このような精子数の違いをもたらすと推定される。

E. 研究発表

1. 論文発表

Shinka, T., Nakahori, Y. et al.: Genetic variations on the Y chromosome in the Japanese population and implications for modern human Y chromosome lineage. *J. Hum. Genet.* 44: 240-245, 1999.

Kuroki, Y., Iwamoto, T., Nakahori Y. et al.: Spermatogenic ability is different among males in different Y chromosome

lineage. *J Hum. Genet.* 44:289-292,1999.

2. 学会発表

中堀豊, 黒木陽子, 新家利一他: ヒト精子数と遺伝的素因の関連—日本人Y染色体のタイプ別精子数—、第44回日本人類遺伝学会, 1999年11月18日, 仙台

G. 知的所有権の取得状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

19990629

これ以降は雑誌/図書等に掲載された論文となりますので「研究成果の刊行に関する一覧表」をご参照ください。

「研究成果の刊行に関する一覧表」

Kuroki Y, Iwamoto T, Lee J, Yoshiike M, Nozawa S, Nishida T, Ewis AA, Nakamura H, Toda T, Tokunaga K, Kotliarova SE, Kondoh N, Koh E, Namiki M, Shinka T, Nakahori Y. **Spermatogenic ability is different among males in different Y chromosome lineage** J Hum Genet. 1999;44(5):289-92.

岩本晃明, 馬場克幸. 【環境ホルモン(内分泌攪乱物質)研究の展開】環境ホルモンと精子数の動向 医学のあゆみ(0039-2359)190 巻 7~8 号 Page739-742(1999.08)

馬場克幸, 岩本晃明, 西田智保, 野沢資亜利. 化学物質による健康障害】内分泌攪乱化学物質(環境ホルモン)のヒトへの影響 男性生殖機能を中心として. 総合臨床(0371-1900)48 巻 11 号 Page2505-2509(1999.11)

岩本晃明, 野沢資亜利, 馬場克幸, 西田智保. 【内分泌攪乱物質とヒト内分泌系】精子数に及ぼす内分泌攪乱化学物質の影響について. ホルモンと臨床(0045-7167)47 巻 12 号 Page1141-1149(1999.12)

末岡浩, 吉村泰典. 【環境ホルモン】精子減少と環境有機物. 産婦人科の世界(0386-9873)51 巻 1 号 Page103-109(1999.01)

馬場克幸, 野沢資亜利, 岩本晃明. 環境汚染と周産期】内分泌攪乱化学物質と精子への影響. 周産期医学(0386-9881)29 巻 4 号 Page405-408(1999.04)